

保護者との関係づくり

ワークシート 秋田県立角館高校

ワークシート、HP、など 多面的な情報発信で相互理解

2007年度、文部科学省「キャリア教育の在り方に関する調査研究」の指定を受けた角館高校。3年目となる09年度も、同校の実態に合った、効果的なキャリア教育を実践しようとして、家庭や地域社会と連携しながら計画を推進している。

特に、地域との連携として取り組んでいるのが年3回実施の「職業人講話」。毎回、15人の地域の職業人から仕事や、高校時代に学んだことが、今にどうつながっているかなどを生徒に話してもらっている。

「自分や将来について今、どれだけ真剣に悩めるかが大切だと考えています。地域の方々を生き方モデルとして学ぶことで生徒が自分の将来像や、そのために今どう生きるかを考え、悩むきっかけになればと思います。また、そのことが学習意欲等にもつながることを期待しています」と佐藤香先生。また、「生徒により深く考えてもらうためには、家庭での話し合いが重要」と考え、同校では、ワークシートを活用。「職業人講話」や「先輩からのキャリアアドバイス」の授業後、生徒は理解したことや考えたことを記入。シートには保護者記入欄も設け、子どもと話し合った感想や意見を記入、提出してもらおうとしている(下図)。

School Data

生徒数 / 578人
(男子297人・女子281人)
全日制普通科 15学級
進路状況(2008年度) /
大短進学56.6%、専各進学20.1%、
就職19.0%、その他4.2%
秋田県仙北市角館町細越町37
TEL 0187-54-2560
URL <http://kakuoku.net/zen/>

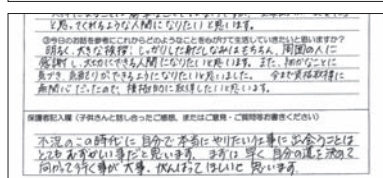
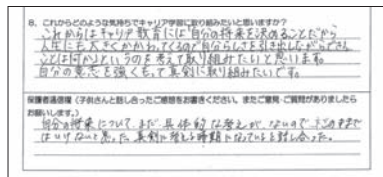
親子の会話のきっかけとなる ワークシートの保護者記入欄

「仕事などで、学校行事に参加できない保護者にも、ワークシートを見ていただくことで、学校の取組みを知ってもらえる。そこで自分の子どもが何を感じ、思ったかも生徒のコメントから伝わります。生徒は保護者の欄を読むことで、自然に親の気持ちを受けとめることができそうです。担任も、両者のコメントを読み、質問に答えたり、面接の参考にしていきます」

このワークシートのおかげで「仕事や職業が、家庭で話題になるようになった」と話す生徒たちも多い。アンケート結果でも、昨年より「家で



職業人講話
左/臨床工学技士。生徒は実験も体験した。右/幼稚園教諭。偶然にもこちらは卒業生だった。



ワークシート
回を重ねるごとにコメント内容が充実し、生徒、保護者とも進路への意識が高まっていることが感じられるようになった。

話す」と答える生徒が増えているそうだ。同校では、キャリア教育通信やホームページでの情報発信にも力を入れ、「職業人講話」も写真を交えて詳細に報告している。

「他の生徒の感想から互いに学び合うことにも、親子で話し合う過程が大切だと思います。話のきっかけとなる情報の発信は学校の役目と考えています」と佐藤先生。ホームページは1日に約70〜80人の方が見ているという。

保護者による就職模擬面接により 生徒は社会を学ぶ

角館高校では、以前から保護者と連携して「保護者による就職模擬面接」を実施。その年のPTA役員に、面接官になってもらう。就職希望者を対象に模擬面接を行っている。

「親と教師以外の大人を前に、がちがちになり、あまりに緊張して倒れる子ども。でも、この模擬面接のおかげで、本番は普通に話せるという子どもも多いです」と語るのは進路指導の鈴木巨先生。生徒にとつて単に面接の練習にとどまら



進路指導主事
鈴木 巨先生(左)
キャリア教育推進委員会副委員長
佐藤 香先生(中央)
秋田県教育庁高校教育課
キャリアアドバイザー
後藤倫子先生(右)

ず、親や教師以外の大人との出会いが、大きな刺激になっているそう。

「保護者の方のなかにも、様々な経歴の方がいらつしゃるので生徒は緊張しながらも、何かしら感じているはず。終わったあと、生徒には面接官に礼状を書いてもらいます。PTA役員の方でも、あの子、どうなった?と自分の子以外の進路に関心を示してくれる。そうするとおのずと自分の子どもへの関心も高くなります」と鈴木先生。

PTA同士も、共に面接官を経験することで横のコミュニケーションが深まり、より学校へ関心をもってくれるようになる。「伝統のある進路行事ですが、相乗効果は大きく、これからも続けていきたいと思っています」(鈴木先生)



保護者による就職模擬面接
面接官になってもらうPTA役員には、事前に質問サンプルでメッセージしてもらい、生徒の志望業種の人事役として面接に臨んでもらっているそう。

今回は、保護者との関係づくりの基本である保護者会や面談をはじめとし、各校が工夫を凝らす活動を紹介。保護者と学校のコミュニケーションについての著作や、各地での講演活動で知られる小野田正利先生にもアドバイスをいただいた。

父親の会 岐阜・私立聖マリア女学院高校

男性教員と父親の会で 連携し合える関係づくり

中高貫の女子校である聖マリア女学院中・高校では、1989年頃から父親と教師、父親同士の親睦を深めることを目的に、男性教員と父親だけの「父親の会」を立ち上げた。毎年6月の「父の日」前の土曜日、会合を行っている。

「最初に2時間ほど、学校の近況報告、生徒の状況、進路などの説明を行います。ここで学校についての理解を深めてもらい、その後、懇親会を行います」と早川和彦教頭。懇親会は学年ごとに実施するが、ここまでは「人づつ自己紹介を行うそう。」

「この学校に入れた経緯や、最近、娘は家



父親の会
最初2時間で、学校について説明する。同校ではこのほか、バザー、大学見学会、留学フェア、聖書講演会など保護者参加型の行事を行っている。



教頭
早川和彦先生
教師に対しても、個人的な話をしてくれます。学校行事で顔を合わせた時に、ざっくばらんに話しかけてくれたり、場合によっては、相談してくれたりするのうれしいです。

席率は父親も含めて85%以上という。「接する機会が多いせいか、先生たちは教育に専念して、後はうちでフォローするから」と言ってくれる保護者もいます。頼もしい限りです」

「担任はもちろん、PTA役員が絶対参加したほうがいい。こんな話が聞けるよ」と、呼びかけてくれます。ほかの保護者や、男性教員と顔見知りになることで、そのほかの学校行事にも参加しやすくなるようです」と早川先生。実際、保護者会総会の出席率は父親も含めて85%以上という。

ほかの学校行事にも 父親が参加しやすくなった

School Data

生徒数 / 315人(女子のみ)
普通科 12学級
進路状況(2008年度) /
大短進学94.0%、専各進学4.0%、
就職0.0%、その他2.0%
岐阜県岐阜市福富201
TEL 058-229-1102
URL http://www.maria.ed.jp/

授業体験 東京都立富士高校

授業体験や「おやじの会」で 保護者の理解を深める

東京都立富士高校「父母と先生の会」(PTA)では、PTA教養講座として2004年度より「一日富士高生」という企画を年1回実施。保護者が生徒となり、同校教師の授業を受けるというものだ。

「新鮮で楽しいと言ってくださる方が多い。どんな雰囲気教師がいて、子どもたちがどんな授業を受けているのか、よくわかったと好評です」と神田亮二副校長。学校の様子が見えることで、保護者も安心するし、家庭でも学校を話題に会話するようになる。「保護者と学校の相互理解を深めるには、とても効果的だと思います」



「一日富士高生」の授業風景。
なかには夫婦で参加する保護者も。教師は保護者向けに講義内容を考え、教材も作成。「子どもたちがどこでつまづかなか、生徒の様子がわかることも、随所に織り交ぜて話そうにしています」と神田副校長。



副校長
神田亮二先生
私自身も07年度、生物の授業「人の誕生と成長」を担当。保護者向けに教材も作成し、思春期とのホルモン分泌について講義を行いました。みなさん、真剣に聞いてくれるので、教師としても楽しい限りです。

「学校側が、襟を開いて保護者と関わろうとすれば協力してくれます。むしろもっと学校と交流したがついて。だからこそ、こちらから保護者が参加しやすいきっかけを作ることが大切だと思います。互いに慣れることが必要ですが、やってみると次第に緊張感も解けていくものですよ」

仕事やイベントなど父親参加の きっかけをつくる

「父母と先生の会」では、06年度より「おやじの会」を立ち上げた。父親同士のつながりを深めてもらうためだ。同会には、文化祭のビデオ撮影を担当してもらっている。「撮影をお願いした父親たちも、何か仕事がある」と、学校に来やすいと好評です」

神田副校長は、親に当事者になつてもうかがうことが学校理解の第一歩だと語る。

School Data

生徒数 / 968人
(男子500人・女子468人)
普通科 24学級
進路状況(2008年度) /
大短進学61.0%、専各進学2.0%、
就職0.0%、その他37.0%
東京都中野区弥生町5-21-1
TEL 03-3382-0601
URL http://www.fuji-h.metro.tokyo.jp/

保護者面談 神奈川県立藤沢西高校

30分の保護者面談が信頼を得る端緒に

神奈川県立藤沢西高校では、毎年全学年が6月に保護者面談を行っている。小島昭彦先生が担任を持つ際は、1人約30分かけじっくりと話をする。心がけているのは、「生徒のいいところをほめる」ということ。「掃除中、率先してゴミ捨てをしてくれた」、「黒板をきれいに拭いてくれた」など、その場でほめられなかったささやかなことでもきちんと「いいと思ってる」と伝える。「保護者は必ず子どもに伝えてくれるので、それが家庭でのコミュニケーションになります。生徒の自信になり、家庭の雰囲気が見えるようになることを願っています」（小島先生）。たつぷり30分話すことで、短い時間では出てこない保護者の本音を聴くこともできる。時には授業内容の改善を求める声や、学校から保護者への連絡不足を訴える声も出てくる。そんな時は、該当する先生に伝えたり、学校からのお知らせをHPに載せるなどして、改善を図る。「この面談が、保護者との信頼関係を築くスタートになると感じています」

「今は昔より親子の距離が近く、高校生でもまだまだ未熟な部分が多い」という小島先生。「高校でも保護者と連携した教育が不可欠。保護者が学校に来る機会を少しでも増やしてもらいたいと考えており、保護者面談でもそう伝えています」

School Data

生徒数 / 831人
(男子388人・女子443人)
普通科 21学級
進路状況(2008年度) /
大短進学69.0%、専各進学17.8%、
就職0.5%、その他12.7%
神奈川県藤沢市大庭3608-2
TEL 0466-87-2150
URL <http://www.fujisawashi-hpen.kanagawa.ed.jp/>

学校公開 石川県立金沢桜丘高校

学校公開で、生徒の「輝く姿」を見せる

石川県立金沢桜丘高校では毎年2回、保護者や一般の人に向けた学校公開日を設けている。5～6日の期間中、150人前後の人が来校する。3年生を担任している表正敏先生は、この行事で「生徒のポテンシャルを存分に保護者に見てもらいたい」、「生徒がいきいきと輝いて学んでいることをわかってもらいたい」を目標している。同校では、保護者の進学に対する関心は高く、この行事に興味を持ち参加した保護者は、非常に熱心に授業を見学してくれる。「学校公開は、子どもの学ぶ姿を見て、子どもとの対話を増やしてもらおうチャンスだと思っています」（表先生）。表先生が担当するある英語の授業では「exist」と「live」の違いについて問いかけた。「existは単に生物として存在していることで、liveは能動的に人生を生きることで、授業も能動的にかかわるliveの精神で行こう」と伝えました。学校公開では、生徒の「面白いところを引き出すためにはどうしたらいいか」「生懸命に考えるので、生徒の視点に立つて授業を進める大切さに改めて気づかされます」。学校公開後、「保護者と学校生活や進路について話した」という生徒もいて、学校公開が、保護者に子どもと話す共通の話題を提供し、親子で進路を考えるきっかけになっていると感じている。

School Data

生徒数 / 1076人
(男子560人・女子516人)
普通科 27学級
進路状況(2008年度) /
大短進学82.6%、専各進学4.8%、
就職0.5%、その他12.1%
石川県金沢市大樋町16-1
TEL 076-252-1225
URL <http://www.ishikawa-c.ed.jp/~sakuh/>

電話 徳島県立阿波高校

新学期初日に、保護者全員に電話であいさつ

進路指導部の河野豊司先生は、現任校で担任をもつ時、入学式・始業式の日、必ずすべての生徒の自宅に電話をかけ、保護者にあいさつしている。簡単な自己紹介のあとに必ず言い添えるのは、「何でも相談してください」、「言いたいことは何でも言ってください」という言葉。親にとって、子どもの担任がどんな先生かは気になる場所。でも高校では保護者と担任がじっくり話す機会はない。このため、まずは担任から働きかけることが大事だという。「あいさつ程度でも、保護者が学力・進路生活のどれに興味をもっているかが伝わってきますし、どんな家庭かを想像できるので、生徒を理解するうえでも非常に役立ちます。またこの電話は保護者にとってインパクトがあるようで、PTA総会などへの出席率が高まる効果もあります」（河野先生）

前任校では生徒のいいところを保護者に伝えるために手紙を活用していた。「自信がなさそうにしていたり、しよつちゅう怒られているけど本当は頑張っている部分がある生徒など、気になる生徒が対象。担任として気づいた生徒のよさなど、何気ないエピソードを書きます」。保護者からはお礼の手紙がきたりして、大変喜ばれるそうだ。「自分が保護者の立場でやっても良かったらうれしいことを積極的にやるようにしています」

School Data

生徒数 / 647人
(男子342人・女子305人)
普通科 18学級
進路状況(2008年度) /
大短進学77.2%、専各進学16.5%、
就職1.8%、その他4.5%
徳島県阿波市吉野町榎原字七ノカ180番地
TEL 088-696-3131
URL <http://www.awa-hs.tokushima-ec.ed.jp/>

保護者との連携・関係づくりアイデア集

授業から交流会まで、全国の先生方の実践をヒントに!

保護者交流会(飲み会)の開催

■担任をもったときは、保護者交流会と称した飲み会を開いている。膝を突き合わせて楽しい時を過ごす、保護者との距離がとて縮まる気がする。家庭でも担任の話題が以前より多くなり、学校生活についての親子の会話が増えたと聞いている。(長野県)

朝の家庭への電話

■教育困難校で、遅刻が多いため、気になる生徒には朝、電話をかける。生徒が出ない場合は保護者に電話。厳しい経済環境のなか、忙しく働いている保護者も多いので、責めるのではなく一緒に子どもを支える態度で励ましながら、協力をあおいでいる。(大阪府)

授業【国語編】

■国語の授業で短歌を創作する時、クラスの友人からだけでなく、保護者からも批評をしてもらい、よりよいものに磨き上げる取り組みを行っている。保護者の意見は的を射たものが多く、年長者らしい含蓄がある。生徒にとっては、学校の授業内容について親と話をする貴重な機会になっている。(高知県)

授業【家庭科編】

■家庭科の授業で、冬休みの課題が「我が家のおせち・名物料理」のレポート提出だった。どれもおもしろい内容で、保護者と生徒が語り合い、相互理解を深めるきっかけになっていると感じた。保護者と生徒との関係づくりを意識した授業も、学校ができる保護者との連携だと思う。(東京都)

文化祭への「おやじの会」参加

■わが校では「おやじの会」の活動がさかん。文化祭では、おやじの会と書道部、写真部との「部活動対決」を決行した。結果は一勝一敗の五分。ほかにも校内のガーデニングを行うなど、学校の環境整備に協力してもらっている。(青森県)

校門指導で協力

■開かれた学校づくりを目指して、日ごろの校門指導を保護者とともにやっている。保護者の目に触れることで、生徒は生活態度や服装に気づかうようになる。保護者には、生徒の日ごろの様子を知ってもらい、いい機会になっている。(埼玉県)

防犯バトロール

■放課後、よく不審者が出没するため、保護者と教員が連携して、年4回防犯バトロールを実施している。防犯効果だけでなく、生徒の自転車の運転マナーがよくなる効果も。保護者と教員の間にはざくばらんな雰囲気が生じ、PTA総会など改まった場では出てこない本音が聞けたり、何気ない会話ができている。(愛知県)

学年通信で情報提供

■「学年進路通信」として、隔月で進路通信を発行。PTA総会などがある5~6月には卒業生のアンケートをもとに、「親に言われて嫌だった言葉、励みになった言葉」を掲載し、話題提供をしている。(静岡県)

特別インタビュー

保護者との信頼関係は、 生徒との信頼関係づくりから

「学校現場に元気と活力を!」をモットーに、保護者と学校が「いい関係」を作るため、現場に根差した研究や講演活動が続ける小野田先生。保護者が学校に求めていることや、今号で紹介した事例への講評も含めアドバイスしてもらった。



大阪大学大学院人間科学研究科
教育学博士

小野田正利教授

専門は教育制度学、学校経営学。学校への「イチャモン」研究の第一人者として『親はモンスターじゃない!』(学事出版)などの著書や講演活動が、学校・保護者の共感を呼んでいる。近著に『イチャモンどんどこい!』(学事出版)『ストップ! 自子チャー!』(旬報社)など。

高校生の保護者が学校に求めるものは、ほぼ二分化しています。上位校進学を子どもに期待する保護者に顕著ですが、わが子に失敗の道を歩ませたくない、学校でどんな風に勉強させているのか、トラブルをどう防いでくれるのかなどを知りたいが保護者が増えています。10年ほど前から大学の入学式にも保護者の姿をよく見るようになりました。かつては学年が上がるほど子どもは自立し、親の不安感が軽減されていたのが、親子の密着度が高くなり、高校生でも小学生に対する感覚と変わらなくなってきた感じがします。

一方、高校ぐらいは出ておかないと、とか、入ったらあとは子どもの好きなようにしたらいい、と考える保護者もいます。こうした保護者は学校からいちいち報告がなくてもいい、あとは子どもに任せているから、と接点を持ちたがりません。高校にあまり期待をせず、一生懸命情報提供をしてもあまり響かない層と言えるでしょう。

しかし、表面上は違うように見えても、共通点はあります。どちらも子どもの失敗を自分の失敗のようにとらえてしまう傾向が強くなっています。ゆえにトラブルがあって学校と話し合う際、「子どもの問題を解決する」という同じ土俵に立ちにくい。もちろん、わが子を思う気持ちも同じです。一番気になるのは、きちっと勉強させてくれるか、びしっと生活指導してくれるかより「ちゃんとうちの子の話を聞いてくれるのか」ということです。

保護者の不安と向き合う態度を示そう

保護者と信頼関係を作ろうとする時に間違えてはいけないのが、青年期に入ろうとする高校生であれば、「本人がどうしたいのか」が一番重要だということです。生徒自身の気持ちに寄り添えるか。ここをはずすと親は満足でも子どもが不満足、ということがあります。生徒が学校を好きで満足していることが親に伝わる、これが一番です。

そのうえで、保護者の立場に立つこと。保護者も思春期、青年期の子どもを抱えて、どう子どもと距離をとればよいか、不安に思っています。入学式でいきなりくどくどと校則を説明して「きっちり守ってくれないと責任取れません」などと権威主義的な態度で臨んでもあまりいいことがない。教師も同じ高校生を相手にしている、育ててゆく上での苦労を共有しよう、という態度を示すことができるといいですね。

その点では、藤沢西高校・小島先生の「30分の保護者面談」や阿波高校・河野先生の「保護者全員への電話」が大変参考になるでしょう。30分という長時間の面談では、学校に対する要望だけでなく、わが子に対する不安を聞くことができます。メールでなく、電話、肉声で話をすることも、「正面から向き合っている」という安心感を保護者に与えることができます。学校封筒でなく白封筒でお手紙を書くというのも、「通達」ではなく「個人的なつながりを持ちたい」というメッセージが伝わると思います。

生徒を中心に保護者をつなげる

富士高校の「一日富士高生」も、保護者が学校の様子を知ることができるよいイベントですね。保護者目線だけで学校を評価するのではなく、生徒の目線で学校の雰囲気を知り、先生が生徒に何をしてくれているのかを感じることができるので、保護者と学校が「生徒にとって大切なこと」を中心に話をする下地づくりにもなるでしょう。

保護者の問題は年々難しくなっていますが、教師は子どもと向き合ってなんぼです。そのことさえ間違えなければ大きく道をはずすことはありません。なにかあっても、最後は彼らが助けてくれるはず。保護者との信頼関係づくりは、まずは子どもたちとの信頼関係づくりからです。